

第2回 小中一貫校準備会議

議事録 要旨

- 1 開催日時 平成26年3月12日(水)19:00～20:50
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 参加者 小柳和喜雄（奈良教育大学教職大学院教授）
諸岡健一（保護者代表）、角 義恭（保護者代表）
吉川 太（自治会代表）、有山喜八郎（自治会代表）
十文字良明（生駒北小学校長）、本田善藤（生駒北中学校長）
富山二郎（教職員代表）、松島誠周（教職員代表）

4 開会あいさつ

5 質疑応答

座長 : 議題は一貫校の設置場所である。所属の意見を踏まえてご意見を伺う。

参加者 : アンケートをとった。対象は北倭保育園、高山幼稚園、普賢寺小学校、生駒北小学校、生駒北中学校の全保護者である。回答として、設置場所は「小学校がいい」「中学校がいい」「どちらでもいい」「どちらか判断できない」がほぼ同じだった。「小学校に設置」という意見でも「中学校に設置」という意見でも「安全の確保」と記入されていた。北小、北中両育友会としての意見は、敷地面積が広くて使いやすい北中学校への設置だが、通学路の安全性は確保してもらいたい。

参加者 : 小学校を選ぶ理由は安全性であり、その他を選ぶ人も「安全性が確保されるのなら」という意見である。

参加者 : 久保自治会役員会で第1回準備会議の報告をしたが、特に異論はなかった。広く平らな地形の中学校が良い。ただし通学路の安全性を確保することが前提条件である。

参加者 : 地図上で90m角を小中学校の敷地に置くと、小学校は敷地内に収まるが、中学校は体育館に当たるので南側の買収が必要。北中学校の土地は東西60m南北100mだ。通学路について県は、道路はそのまま西側水路側溝に蓋をする案を提示したが、車道と歩道の区別ができず、道路幅は5~8メートルで一定でない。消防署跡地は歩道として確保できると聞いている。奈良県と地元と学校と市が協力すれば通学路は確保できる。

座長 : 育友会と自治会の意見を集約すると、設置場所は北中学校の方がいいということで良いか。

参加者 : 中学校の方がふさわしい。しかし通学の安全性を確保することが前提だ。部活の活性化のためにも敷地が広い中学校がいい。

参加者 : 敷地の周囲に民家があると騒音等で迷惑がかかる。小学校敷地には隣接する民家が多いので、中

学校の方が敷地としていい。野球は90m角が取れなくても練習できる。

参加者 : 通学路の安全が最優先である。

参加者 : 生駒北小学校周辺には民家が多く、グランウドの形もいびつだ。

座長 : 通学路の安全性を確保すれば、制約条件が少ない北中学校の方が敷地としていいという方向で意見がまとまってきた。

参加者 : 県や市が進める163号線北側事業計画立案時に、この地域の8つの自治会代表も参加させてほしい。

参加者 : 通学路の安全確保は、市の関係各課と検討しなければならない課題だと前回の会議で指摘した。その後どのようなやり取りをしたのか。この会議で議論したことは市でどのように議論されたのか。警察や市の担当課との連携はどうか。

事務局 : 会議の内容は伝えているが、具体的な案はまだできていない。

参加者 : 通学路の安全策について具体的なものがないと、ずっと住民は心配だ。

事務局 : 通学路の安全確保については市の担当課と連携をとっている。具体的なことは今後小中一貫校準備会議で報告したい。

座長 : 事務局と関係各課が検討することは前回の会議で確認していなかった。各課と連携し、今後は報告いただきたい。

参加者 : アンケートの質問の中に、バス停は移動できるのか、校門は移動できるのか、駐車場は確保できるのか、消防署跡地を転用できるのかということがあった。

参加者 : 北中学校側に新校舎を建てたら、地域が利用できる体育館は北小学校側にできるのか。災害時の避難場所の確保という観点からどうか。

事務局 : バス停は奈良交通に付け替えを打診している。校門は県道側に移動したいと考えている。消防署跡地は教育委員会で使用できると考えている。耐震面で安全な中学校の体育館は建て替えない。地域の体育館として北小学校体育館を残すことができる。通学路は土木課や警察とも協議しないといけないので、地域の要望を踏まえ、別の機会に相談したい。

参加者 : 中学生は中学校前のバス停は使用しないのか。出店橋と新出店橋の間は110mで、その中に交差点が3つあるため安全面が心配だ。

参加者 : 1つの敷地に小学校と中学校が収まるのか、確認をしたい。

事務局 : 国の資格面積、基準で見ると、現状では小学校も中学校も校舎の保有面積は、基準の1.5倍ある。十分なスペースだと考えている。

参加者 : 北中学校より北小学校の方が歴史が長く、地元住民には特別な思い入れがある。今度のプロポーザルにはこども園と給食センターのレイアウトも入れてほしい。

事務局 : プロポーザルは「どういうものを作りたいか」であり、校舎のデザインはあとになる。こども園は北倭保育園に建ててもらうので、市からは要望できない。形あるものを見るにはまだまだ時間がかかる。

参加者 : 北中学校が敷地になると、校舎が完成するまで北中学校は北小学校に引っ越すことになるのか。職員室も家庭科室も狭い。小学校の施設を中学生が同じように使えるのか心配だ。

参加者 : 設置場所は中学校でいいのか。

事務局 : 市教委で判断するが、この会議の意見を尊重することになる。

- 参加者 : 2度引っ越しするよりは、中学校の南側に新校舎を建て、建設中、中学生は小学校の運動場を使うというのはどうか。体育館は小学生には小学校用の体育館が必要ではないか。駐車場は運動場の外側に作ればどうか。
- 参加者 : 新校舎ができて同時に引っ越すことができるなら、小学校としてはありがたい。
- 参加者 : 小学校側に建てる方がいいという意見の中には、部活は中学校のグラウンドを利用できないのかと書いたものがあつた。高山幼稚園敷地に給食センター、北小学校敷地に校舎、北中学校敷地に運動場を作るのは可能か。
- 事務局 : 配送や食材搬入の車両進入経路が必要。しかし、試食や見学のために一般の方も来るので狭くて実現は難しい。
- 参加者 : 移行期間は不自由だがそれは1~2年の間だ。新校舎を南側に置くと、運動場が日陰になるという状況が学校が使われる5~60年間続く。子どもの数が増えたら増築も考えないといけない。長い目で見ると新校舎を北側に建てる方がいい。
- 参加者 : 北中は体育館が敷地の真ん中にあり、斜め向かいには個人所有の土地がある。南側に校舎を建てると運動場の形がいびつになる。また、北側の民家にも隣接するので北小と同じ課題を背負うことになる。
- 参加者 : 上中や大瀬中は北側に運動場があるが、運動場の日陰は気にならないと思う。
- 参加者 : 次の会議では図面を置いて校舎等をはめ込みながら話し合いたい。
- 事務局 : 校舎を作るとどんな運動場になるのか、部活にどう影響するのか、それらの資料をお渡ししたい。プロポーザルについては次の会議までにたたき台を作りたい。道路については今のところお渡しできるものはない。
- 参加者 : 163号線のバイパスができると校区の境はどこになるのか、大学院大学の校区はどこになるのか教えてもらいたい。
- 事務局 : 大学院大学は北小校区であるが、鹿小にも行くことができる調整区域だ。

6 事務連絡 (事務局)

次回の開催については日程を調整後、連絡する。